

瑞穂ケーブルテレビ株式会社
2025年度 第18回番組審議会 議事録

日時：2025年12月3日（水）17：30～18：15

会場：たかはしや（箱根ヶ崎140）

【出席者】

番組審議委員 5名（敬称略）

細渕浩昌（委員長）

関谷 忠

榎本和己

川鍋悦子

岩田卓也

放送事業者側出席者 12名

荻野喜美雄（取締役会長）

楠見 裕（代表取締役）

奥田貴哉（取締役）

鹿倉貞二（取締役）

佐藤敏光（取締役）

石井明美（監査役）

小太刀亨（入間局制作編成部長）

森田一法（制作課長）

瀬崎一哉（制作係長）

井上詩歩（制作課）

鹿島美保（制作課キャスター）

江原鈴奈（パート職員）

【次第】

1. 開会の挨拶
2. 代表取締役
3. 委員長挨拶
4. 審議事項
 - 1) コミュニティチャンネルにおける主体的な番組制作
 - 2) 意見交換（1の審議事項について）
5. その他
 - 1) グループ会社の現状について

6. 閉会の挨拶

2. 瑞穂ケーブルテレビ社長挨拶（楠見代表取締役）

瑞穂ケーブルテレビは社員の人事異動により人員が1減となり番組や取材本数が若干減少した部分があります。しかし期の途中にパート社員1名が入社し、本来の総務関連業務に加え、番組出演や「私たちの未来日記」の編集作業も担当し、戦力として活躍しています。瑞穂ケーブルテレビはもともと人数が少ないですが、瑞穂町の皆様により良い番組を発信していくことが使命だという思いのもと、一致団結してやっております。

本日は審議委員の皆様から、番組に対して忌憚のないご意見を頂戴し、それを社員の力に変えていければと思います。今後とも皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

3. 番組審議委員長（細渕委員長）

一年間を通して色々な取材による町民への情報発信に感謝しています。審議委員の皆様には忌憚のない意見を述べてもらい、これから来年度に向けて繋げていけたらと思います。

4. 審議事項「コミュニティチャンネルにおける主体的な番組制作」森田社員

- 接続世帯数： 4,384 世帯 （加入率 30,0%）
加入可能世帯数：14,694 世帯 2025年10月末現在
- 年間取材本数： 904 本（12月～11月） （前年同期 948 本）

「コミュニティチャンネルにおける主体的な番組制作」を事業者が説明した
コミュニティチャンネルの総括

- ・局の人員変動と業務内容の説明
- ・他局からのヘルプを得て「駅伝競走大会」と「三地区夏祭」の生中継を今年も実施
- ・4月の瑞穂町長選挙開票速報の準備→無投票結果によりニュース速報で発信
- ・SNS活用に注力→SNSの重要性を説明

審議事項「コミュニティチャンネルにおける主体的な番組制作」について

- ・基本コンセプトは「コミチャンの主役は町民」
→今年はコンセプトに違った側面からアプローチする取り組みを実施
→取材対象に主体的に参加し、興味関心を高める
→自ら「行動」・「体験」することで番組の説得力を増す

→視聴者のシビックプライドの醸成→「行動」・「体験」を促す

*** 「ぴあのくらぶみずほ 23 期生 一年間の軌跡」**

※「ぴあのくらぶみずほ」…町が企画する 50 歳以上のピアノ初心者を対象にした教室

→社員が「ぴあのくらぶみずほ」に参加し番組制作

→自身のピアノの上達や仲間との絆などを描く

*** 新年特別番組企画「青少年の主張意見発表会への挑戦」(予告映像を視聴)**

→社員自身が優秀賞入賞者として発表会に参加するまでを描く

意見交換 (議事進行／細渕委員長)

委員：私が審査員を務める「青少年の主張意見発表会」でケーブルテレビの社員が発表するというので緊張しています。当該社員は、瑞穂中学校 2 年生の時にケーブルテレビで職場体験をしている。中学生の時に体験したことが夢として具現化され、町のためにメディアとして発信していくことは評価できる。

事業者：全力を尽くします。

委員：「ぴあのくらぶみずほ 23 期生 一年間の軌跡」はとても自然で良かった。自分が参加することで、他の参加者の気持ちも理解できるので番組が説得力を増す。番組の中で、途中でリタイアしてしまった参加者のことも描かれていてドラマがあった。

事業者：社員が取材対象に入り込むことで、主役になりがちだが、参加する他の町民にもスポットを当て、視聴者への興味関心を高めると感じている。番組制作における労力がかかるが、定期的に作っていくべきだと思っている。

委員：追いかける感じの番組は見応えがあっっておもしろい。

事業者：制作には労力がかかる。コロナ禍では町が行った「オンライン授業の取り組み」と「ワクチン接種事業の取り組み」を番組にしている。

委員：それを聞くと文化・スポーツなど無限に可能性が広がる。

事業者：あくまで町民を主役とした番組作りを念頭に検討していきたい。

委員：小学校の肖像権の問題などはどうか。

事業者：肖像権の問題は番組作りをするうえでかなりネックになっている事は事実だが、現在「私たちの未来日記」では二小のクラブ活動取材している。クラブ活動はNG児童を配慮することが可能。

委員：中学校はどうか。

事業者：瑞穂中学校は取材しやすいが第二中学校はなかなか厳しい部分がある。

委員：幼稚園や保育園はどうか。

事業者：先方からの依頼が多い。加入者である東松原保育園は情報提供も多くなるべく取材するようにしている。

事業者：平日に活動する高齢者を主な取材対象としがちだが、幅広い世代を取材対象にできるよう努めていきたい。

委員：お囃子や獅子舞などの伝統文化の取材はどうか。

委員：三地区夏祭の生中継で、VTRとして子どもたちの笛の練習の様子などを入れるのはとてもいいアイデアだと思う。イベントの背景が見えるし、やりたいと思う子どもたちも増えるのではないか。

事業者：アーカイブとしても価値があるものになる。

委員：アーカイブはとてもいい。他界した昔の知り合いにテレビで再開できる。

事業者：アーカイブはケーブルテレビの財産なので、今後も可能な範囲で放送していきたい。

事業者：瑞穂町民の気質がいい番組を作る原動力になっている。

委員：広報番組「みずほニュース」の制作や町関係の他の番組で引き続きご協力をお願いしたい。

事業者：皆様の貴重なご意見を参考に、今後さらなるコミュニティ番組の充実を図っていきたい。

5. その他「グループ会社の現状について」（荻野取締役会長）

グループ会社の財産は人材です。中間決算では全てのグループ会社で黒字です。社員が一生懸命働いた結果だと感じています。自由に働き、自分たちの糧は自分たちで得るという姿勢を評価したい。

瑞穂ケーブルテレビにおいては、加入率30%をさらに伸ばすとともに、モノレール延伸に合わせて武蔵村山方面のエリア拡張を視野に入れていきます。モノレールの終点になる瑞穂町が他の自治体のリーダー的存在になるようサポートしていけたらと考えています。

以上